

人間というのは、そうなるんじゃないでしょうか。どんなに小さな生き物でもそうですね、みんな人間の為になっている訳ですよ。必要があるから何でもいるんですよ。必要で無いものはいないんですよ。

## 一二五、身を滅ぼす文明——自分の身の回りの知らない事

それこそ、土もそうですよね。地・水・火・風・空という、我々が生活していけるものを全部提供してくれている訳です。地・水・火・風・空——これは神が提供してくれているんですね。この全てのもが無かったら生きていけないんですよ。

これは天台智顛(五〇〇年代／中国・天台山)と言われる方が、みんなに話をした。「我々は、こういうものの中にいるんですよ。こういうものは、大事にしなければいけない」

と、教えられた訳ですよ。

ところが、この地ひとつ見ても、今はどのようになっているんでしょうか？

田舎へ行けば田圃がある。田植えをする。青田刈りなんて変な事やってる処がある。あれはね、赤ん坊を造って、墮ろして水子にしたのと同じ事ですよ。それと何等変わらないですよ。

それじゃ、何故植えるの？——これが国のやる事ですよ。「刈れ」と言われても、本当はやらなきゃいゝんですよ。それこそ、蕎麦でも植えて育てた方が良いでしょう。本当に無駄な事をやっているんですよ、日本人というのは——。

「農耕をする人がいなくなる国は滅びる」

と、昔から言ってますよね。日本がそうじゃないですか。日本人は元々農耕民族でしょう。お百姓をやる人がいなくなってきた。段々／＼機械でやるようになった。若い人はお勤めする。お勤めしたら、もう農家は出来ませんよ。

確かに便利になったけれども、青田刈りなんてやってる以上は、何時かは、その反作用が起きてきますね。

今は何とも無いかもしれない。しかし、何時無くなるか分からないですよ。

物が有るといふ事は無くなる前兆です。——そうですな。

これは、もう地方によつては、稲を植えても実が持たない処がある。実がならない。幾らやつても育たない。これはおかしいということで、田圃を掘ってみた。土がもう、全然駄目なんですよ。

そうすると今度は、土を全部入れ替へする。山を崩して土を持って来る。山が無くなつてしまふ。ついでに田圃も無くなつてしまふ、家を建てていきますからな。

今度は雨が降つてきた。大水になつた。洪水になつて、家が水に浸かつた、流された。——「行政が悪い」と、こうなつてくる訳ですな。

田圃とか山というのは、雨が降つたらちやんとそこで押さえるようになっていく訳です。雨が降る、雨が降つたら、山の林の木や土が水を吸収する。そして、それを谷川に徐々に流すようになっていく訳です。

田圃は田圃で、雨が降つて来たら、田圃に溜めて、水が一気に出不いように止めてくれる。そういうふうになつていく訳です。——そうでしょう。

川や湖水のへド口は、ヨシ葦が吸う。その中に大きい貝がいて、それがへド口を

食べる。そして綺麗になつていく訳です。

それをドン／＼埋めていくから、葦も無い、貝もいなくなる、田圃がない、山には木が無くなる。いろんな処をセメントやアスファルトで固める。当然、水はザ／＼と一気に流れる。勢いが強いから、何処かが流される。——そうですな。

そうしたら、この頃、雨が降つたりして洪水やいろんな事が起きるといふことは、どういふ事でしょう？——先程の地滑りと一緒、みんな人災なんですな、実は——。天災なんか無いんです。全部、人災なんです。

そういう事を、やはり我々は知らなければいけないんです。

そして、稲が育たないから、今度は土を掘ってみた。匂いを嗅いだら土の匂いがしない。ドブ臭い。ドブ臭いんですよ——。

土の中には微生物がいる。調べてみたら微生物もない。勿論、蚯蚓なんかいない訳です。蚯蚓のこんな小さいのは一杯いた。こういうのは、魚釣りに丁度良いですね。蚯蚓のこんな小さいのは役に立ちませんよ。無論、大きな蚯蚓なんかいない訳です。

みんな、蚯蚓を見たら、「ウワーツ、気持ち悪い」と言う。蚯蚓は、私達にどれだけ貢献してるでしょうか……分らないですね？——蚯蚓は、沢山いればいる程、土地は軟らかくなっていくんですね。蚯蚓が糞を出して、軟らかくなってくるんです。そして、蚯蚓があつちこつち這い回るでしょう。あれは、実は土の中に酸素を供給しているんですよ。蚯蚓がいなくなると、酸素を供給出来ないから腐ってくる訳です。ですから、幾ら稲を植えても実がならない訳ですよ。——そうじゃないでしょうか。こんな事に、みんな気が付いているでしょうか。私達は自然というものに対し、どんな事を考えているんでしょうか。——そうですね。

それで今度は、蚯蚓が必要だということで、アメリカから蚯蚓を輸入した。アメリカからですよ。日本は蚯蚓まで買ってるんですよ、アメリカから——。(笑)

ところがアメリカの方では、日本が何にも買わないなんて言っている訳ですよ。ですから、言つてやればいゝんですよ、「あなた達の処から蚯蚓まで買ってるんだよ」つて——。(笑) 阿呆な事を言われて、ウロチョロ、ウロチョロしてしまつてね。

輸入して今度は、蚯蚓を田圃の中に撒くのかと思つたらそうじゃない。蚯蚓をある

一定の処で飼つて、蚯蚓の糞を取つて撒いて歩くという、おかしな事をやってる。放せばいゝのにと思うけれども、ところが値段が高いから、放せないんじゃないでしょうかね、あれは——。

そのくらい、農家をやっている人達でさえ、ここまでいつてる訳ですよ。そんな事を知らない人だったら、土がどんな状態かなんて全然考えないですよ。

それでどんどん……アスファルトやセメントで土を覆つてしまう訳でしょう。土は息をしてるんですよ。息をしてるのに、みんな蓋をする訳ですよ。

で、蓋をされるから、何処からか出さなくてはならなくなる。桜島バーン！ね。阿蘇山バーン！。(笑) これは、やはり何処かで息をしなくてはいけない訳でしょう。溜まったエネルギーを放出しなければいけない訳ですよ。

「そんな事を言っていたら、何も出来ませんよ」つて言うかもしれないけども、私達は、そういうものが文明だと思つては本当はいけません。

私達は、自然というものがあつて、生かされている訳ですよ。

自然というものに対しての自分、そして、人間というものを考えた時に、やはりも

つと自分の身の回りの事が、本当に分からなくてはいけない。いろんなものに気が付かなかつたり、知らない事も沢山ある。

また、自分は知らないと言いながら、とんでもない事をやっていることが沢山あるんじゃないでしょうか。こういうもの一つさえ分からなければ、心の世界と言っても中々受け取ってはくれないですね。

私はいろんな処に行つて、話をさせて貰うんですけれどもね、心の中では、「皆さん、分かってください、分かってくださいよ」と、思いながら話をしてるんですけれども、先ずそういう自分の身の回りの事を、よくご覧なさい。

——次回に続く

次回『二六、便利と人任せの現代——自力で掴む幸せ』の小見出し公開予定は、7月の第1週目です。どうぞお楽しみに。